

# すくすく子育て応援アクションプラン

## 進捗状況一覧表

## すくすく子育て応援アクションプラン評価基準

### 【評価の区分】

区 分	評価の基準
A	事業目的を達成したもの(80%以上)
B	概ね事業目的を達成したが、検討課題等が残るもの(50%以上80%未満)
C	事業目的の達成度が不十分なもの(20%以上50%未満)
D	事業目的の達成度がきわめて不十分なもの(20%未満)

区分	小豆島の魅力アップ	
分類	①自然・文化を生かした教育	農業体験、自然を生かした園外保育、地域の伝統文化にふれる

事業名	幼稚園一般事業、池田幼稚園管理事業、児童福祉施設一般事業、池田保育所管理事業	
目標数等	子どもたちが身近にある豊かな自然、文化などの中で様々な体験を通して、小豆島の良さを知り、ふるさとを愛する心を育む	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
---------------------	--------

**町内幼稚園・保育所(園)**

- ・農業体験や野菜づくりなどの直接体験を通しての食育活動
- ・四季に合わせた園外保育
- ・地域の方との交流や島の文化を取入れた保育活動

**春（4月～6月）**

新しい入園児を迎えての園生活。他園との交流保育をはじめ、お花見や田植えなど季節を生かした園外保育、地区のレクリエーション行事・小学校の運動会へ参加し、交流した。



5月 5園合同遠足ではオリーブ公園で交流

**夏（7月～9月）**

老人クラブの方と一緒に七夕まつりをしたり、元気いっぱいプールで遊んだ。各地区の公民館で行われた敬老会では、一生懸命練習した歌や踊りを披露した。



9月 各地区の敬老会で踊りなどを披露し交流

**秋（10月～12月）**

太鼓祭りに模して各地域を練り歩き、地域の方との交流や、稲刈り・焼き芋と収穫した物を食べ、地域の豊かな自然や食べ物への感謝の心を育んだ。



10月 秋祭りに模した太鼓遊びで各地を練り歩き

**冬（1月～3月）**

1年のまとめの時期。5歳児は小学校にスムーズに進めるよう小学校へ体験入学に行ったり、そのほかの子どもたちも進級を意識しながら、園生活を送った。

※2月頃から、新型コロナウイルス感染症が流行し感染拡大防止のため、2月28日付で登園を控えることも検討することを通知。3月は予定していた行事を自粛して開園した。

《幼稚園・保育所での保育生活》

- ・継続して、小豆島の自然を生かし四季折々の季節を感じられる場所に園外保育に出かけ、ふるさとの良さを知る。
- ・活動の後に振り返る時間、考えを発言する時間を設け、子どもたちの年齢に応じて、体験したことに対し、感じる→考える→言葉にすることを助長し、小学校生活につなぐ。

《保育の現場の取り組みを発信》

- ・各施設の取り組みを保護者や町民に広く発信し、保育や教育の様子を知ってもらう。



12月 各園・所で1年の成果を披露する発表会



2月 園周辺などでマラソン大会を開催

区 分	小豆島の魅力アップ	
分 類	① 自然・文化を生かした教育	海や寒霞溪など小豆島の自然を体験

事業名	小豆島の自然体験により、ふるさとを愛する子どもの育成事業	
目標数等	各小中学校の総合的な学習の時間等を活用し、継続して事業を行う。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>各小中学校において、小豆島の自然を体験し、ふるさとを愛する心の育成に取り組んだ。</p> <p>○小学校</p> <p>◇校外学習(遠足)において、小豆島の自然を体験する機会を設けた。 オリーブ公園、田ノ浦、寒霞溪など</p> <p>◇生活科や理科などの授業において、身近な自然をテーマにした学習を行った。 1・2年生活科「町探検」「季節見つけ」 3年理科「春の自然にとびだそう」 4年理科「あたたかくなると、暑くなると、すずしくなると、寒くなると」</p> <p>○小豆島中学校</p> <p>1年の総合的な学習の時間「うしお学習」において、小豆島の自然・文化に関する体験的な学習を年間12時間行った。(5月～6月) (テーマ:オリーブ、石、農村歌舞伎舞台など) 学習の成果をまとめ、学年発表会等において発表を行った。</p>	<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。</p> <p>○小学校</p> <p>◇校外学習(遠足)において、小豆島の自然を体験する機会を設ける。 オリーブ公園、田浦、寒霞溪など</p> <p>◇生活科や理科などの授業において、身近な自然をテーマにした学習を行う。</p> <p>○小豆島中学校</p> <p>1年の総合的な学習の時間「うしお学習」において、小豆島の自然・文化に関する体験的な学習を年間6時間行う。(5月～6月) (テーマ:オリーブ、石、農村歌舞伎舞台など) 学習の成果をまとめ、学年発表会等において発表を行う。</p>

区分	小豆島の魅力アップ	
分類	① 自然・文化を生かした教育	田植え・野菜づくりなど農業体験

事業名	農業体験による心豊かな子どもの育成事業	
目標数等	各小中学校の総合的な学習の時間等を活用し、継続して事業を行う。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>各小中学校において、実態に応じた計画により、事業を実施した。 なお、小学校は1・2年生活科、3～6年理科の学習との関連もある。</p> <p>○池田小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり</p> <p>○星城小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり 全学年でオリーブ栽培</p> <p>○安田小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり 全学年でオリーブ栽培、米づくり(5年) 5年「安小わくわくワークス(総合的な学習の時間)」 「安田の郷から発信!～安田小農業プロジェクト～」(45時間) 東條農業集団と米作り</p> <p>○苗羽小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり</p> <p>○小豆島中学校 全学年でオリーブ学校園での計画的な栽培 1年技術科の授業で1年生全員がオリーブの剪定の仕方を学んだ。</p>	<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。</p> <p>○池田小学校 植木鉢やプランタ 学級園等で花や野菜づくり(一人一鉢)</p> <p>○星城小学校 植木鉢やプランタ(縦割り班) 学級園等で花や野菜づくり、全学年でオリーブ栽培</p> <p>○安田小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり 全学年でオリーブ栽培</p> <p>○苗羽小学校 植木鉢やプランタ、学級園等で花や野菜づくり</p> <p>○小豆島中学校 全学年でオリーブ学校園での計画的な栽培 1年技術科の授業で1年生全員がオリーブの剪定の仕方を学習</p>



区分	小豆島の魅力アップ	
分類	① 自然・文化を生かした教育	醤油・佃煮・オリーブ・素麺など伝統産業を学ぶ

事業名	伝統産業を学ぶ子どもの育成事業	
目標数等	各小中学校の総合的な学習の時間等を活用し、継続して事業を行う。	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
<p>各小中学校の実態に応じて、関係学年の総合的な学習の時間に事業を実施した。</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 4年:「自分らしさを発揮して自分らしく生きよう～ふるさと小豆島で働いている人とのかわりを通して～」年間70時間(素麺、オリーブ)</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」※ふるさと学習として年間55時間 3年:「小豆島の宝～しょうゆ～」 4年:「ふるさとの魅力をさぐる～オリーブ～」</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年:「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 6年:「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年:「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年:「オリーブのすごさをみんなに伝えよう」年間70時間 6年:「ふるさとのよさを多くの人に伝えよう」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」年間 1年:「ふるさとについて調べよう」年間12時間 2年:「島内の職業、職場について」年間28時間</p> <p>小学校では、学習の成果をまとめ、集会や学習参観日などで発表した。中学校では、学習成果をまとめ、学年発表会等において発表を行った。</p>	<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。最終的に、学習の成果をまとめ、集会や学習参観日などで発表する。</p> <p>※4・5月の臨時休業により、時間数を調整中。</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 4年:「いろいろな職業の見学を通して働いている人の思いを知り、自分たちの生活に生かす」年間70時間(素麺、オリーブ他)</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」※ふるさと学習として年間55時間 3年:「星っ子しょうゆ物語」 4年:「小豆島の宝～オリーブ～」</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年:「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 6年:「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年:「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年:「オリーブのすごさをみんなに伝えよう」年間70時間 6年:「伝えようふるさとのよさ」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」 1年:「ふるさとについて知ろう」年間6時間 2年:「島内の職業、職場について」年間26時間</p>



区 分	小豆島の魅力アップ	
分 類	① 自然・文化を生かした教育	秋祭りや農村歌舞伎など伝統文化にふれ地域を学ぶ

事業名	伝統文化にふれ、地域を学ぶ子どもの育成事業	
目標数等	各小中学校の総合的な学習の時間等を活用し、継続して事業を行う。	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
<p>各小中学校の実態に応じて、関係学年の総合的な学習の時間に事業を実施した。</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 1. 2年: 地域の人・もの・こと「町探検」年間55時間</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」※ふるさと学習として年間55時間 3年: 「小豆島の宝～しょうゆ～」 4年: 「ふるさとの魅力をさぐる～オリーブ～」</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年: 「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 6年: 「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年: 「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年: 「オリーブのすごさをみんなに伝えよう」年間70時間 6年: 「ふるさとのよさを多くの人に伝えよう」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」 1年: 「ふるさとについて調べよう」年間12時間 2年: 「島内の職業、職場について」年間28時間 学習成果をまとめ、学年発表会等において発表を行った。</p>	<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。最終的には、学習の成果をまとめ、集会や学習参観日などで発表する。</p> <p>※4・5月の臨時休業により、時間数を調整中。</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 1. 2年: 地域の人・もの・こと「町探検」年間55時間</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」※ふるさと学習として年間55時間 3年: 「星っ子しょうゆ物語」 4年: 「小豆島の宝～オリーブ～」</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年: 「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 6年: 「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年: 「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年: 「オリーブのすごさをみんなに伝えよう」年間70時間 6年: 「伝えようふるさとのよさ」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」 1年: 「ふるさとについて知ろう」年間6時間 2年: 「島内の職業、職場について」年間26時間 学習成果をまとめ、学年発表会等において発表を行う。</p>



区分	小豆島の魅力アップ	
分類	② 芸術体験	瀬戸内国際芸術祭等を生かした芸術体験の実施

事業名	芸術体験事業	
目標数等	各小中学校を対象に、継続して事業を行う。	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
---------------------	--------

演劇ワークショップ等の芸術体験を通して、コミュニケーション能力の向上に努めた。

○平田オリザ氏による演劇ワークショップ

日時・場所 7月8日～9日(小豆島中学校)

内容 小豆島中学校の2年生を対象に、平田オリザ氏による演劇ワークショップ

○わたなべなおこ氏による演劇ワークショップ

日時・場所 11月 7日(星城小学校)

11月25日(苗羽小学校)

2月 3日(安田小学校)

2月18日(池田小学校)

内容 町内4小学校の1～6年生を対象に、わたなべなおこ氏による演劇ワークショップ

○ものづくりワークショップ

日時 3月3日(火) ※コロナウイルス感染症防止のため開催中止

場所 オリーブ記念館

内容 町内4小学校の特別支援学級の児童を対象にしたものづくりワークショップ。

【教員の意見】

- ・人前で話せるようになった。
- ・消極的から積極的な行動へ変化している。
- ・自己表現できるようになってきた。
- ・年ごとに、個のコミュニケーション能力が向上している。



○平田オリザ氏による演劇ワークショップ

日時 6月29日～30日(予定)を延期

場所 小豆島中学校

内容 小豆島中学校の2年生85名を対象に、平田オリザ氏による演劇ワークショップ

○わたなべなおこ氏による演劇ワークショップ

日時・場所 日程調整中(7月～12月実施予定)

内容 わたなべなおこ氏による演劇ワークショップ

○ものづくりワークショップ

日時 日程調整中

場所 調整中

内容 町内4小学校の特別支援学級の児童を対象にしたものづくりワークショップ。





区分	小豆島の魅力アップ	
分類	③島からの情報発信	ホームページの見直し

事業名	わかりやすい子育て情報ページの作成									
目標数等	小豆島町ホームページの子育て共育課へのアクセス数の目標を 当初のH31:270件/月からH31:550件/月 にする									
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み								
<p><b>年間アクセス数 総計9,689(月平均881)</b></p> <p>町の子育て情報を、ホームページや紙面媒体で島内外の子育て世帯へ向けて発信。また、子育てのイベントで情報発信の成果についてをアンケート調査し、利用ニーズや頻度などを追いかけている。</p> <p>《今年度の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て応援サイトの開設(新規)・・・令和2年3月</li> <li>○課ホームページを随時更新 子育て通信、地域子育て支援拠点の行事予定掲載(継続)・・・通年</li> <li>○町SNS(facebook、タンブラー)に園・所の行事を都度掲載(継続)・・・随時</li> <li>○子育て情報発信についてのアンケートを実施(継続)・・・新型コロナウイルス感染症の影響で中止</li> </ul> <p>《アクセス数の変遷》</p> <table border="1"> <tr><td>平成27年度</td><td>年間アクセス数3,204(月平均270)</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>年間アクセス数4,961(月平均513)</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>年間アクセス数5,560(月平均463)</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>年間アクセス数7,626(月平均635)</td></tr> </table> <p>《これまでの取組》</p> <p>平成27年度 (6月)子育て通信配布開始 (3月)町SNS[facebook、タンブラー]開始                  平成28年度 (6月)facebookに子育て通信掲載開始 (8月)広報しようどしまに子育て掲示板掲載開始                  (2月)町ホームページ内子育て共育課トップページリニューアル *以降毎月更新                  平成29年度 (8月)facebook、タンブラーに園・所の行事を都度掲載 *課主催イベント時にアンケートを実施                  令和元年度 (3月)町ホームページ・観光サイトリニューアル、子育て応援サイト新規開設</p>		平成27年度	年間アクセス数3,204(月平均270)	平成28年度	年間アクセス数4,961(月平均513)	平成29年度	年間アクセス数5,560(月平均463)	平成30年度	年間アクセス数7,626(月平均635)	<p>引き続き、町の子育て情報の発信に力を入れる。</p> <p>《島内にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て応援サイト、広報しようどしま、子育てガイドブック、子育て通信による情報発信を引き続き行う(継続)</li> <li>○QRコードを活用し、紙媒体(子育てガイドブック、子育て通信)からネット媒体(子育て応援サイト)へ手軽にアクセスできるよう情報発信を行う(継続)</li> </ul> <p>《島外にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○島外の方が、本町の子育て施策を子育て応援サイトで確認することを意識し、随時情報を発信・更新する</li> </ul> <p>《発信後の調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報発信のリアクションやどんな情報が欲しいかなど、随時ヒアリングし情報発信の状況・満足度などについて調査し、精度を高める(継続)</li> </ul>
平成27年度	年間アクセス数3,204(月平均270)									
平成28年度	年間アクセス数4,961(月平均513)									
平成29年度	年間アクセス数5,560(月平均463)									
平成30年度	年間アクセス数7,626(月平均635)									



区分	小豆島の魅力アップ	
分類	③島からの情報発信	子育てガイドブックの作成



事業名	子育てガイドブック	
目標数等	毎年度情報・掲載内容の更新をかけ発行	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>町内の子育て情報を1冊にまとめた「小豆島町子育て応援ガイドブック」を発行。</p> <p>《取組》 4月～9月 制作・印刷</p> <p>10月 令和元年度子育てガイドブック1,400冊発行配布  <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠届提出時に配布</li> <li>・町内の幼稚園・保育所・認定こども園を利用する世帯</li> <li>・公共施設（公民館、むとす館、社会福祉施設、病院）</li> <li>・NPO法人トティエ（移住フェアなどイベント時に配布）</li> </ul> </p> <p>《そのほか》 「わかりやすい子育て情報の発信」同様、イベント時に認知度（8割が知っていると回答*）と必要な情報、町で子育てする上で困ったことなどないか随時ヒアリングして製作に生かしている。</p> <p>* 今までのアンケート回答者のなかで47名中38（平成28年子育て応援講座事業参加者アンケート10人中6名、まちのおみせやさんごっこ参加者アンケート12名中11名、②平成29年度子育て応援講座事業アンケート25人中21名が知っていると回答。）</p>	<p>《令和2年度子育てガイドブックを発行予定》 令和2年3月より新しく立ち上がった「小豆島町子育て応援サイト」とQRコードなどで連携し、紙媒体・ネット媒体ともに連動したわかりやすい子育て情報の発信に努める。</p> <div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">小豆島町子育てガイドブック (予定)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>妊娠と出産</b> 生まれてくる赤ちゃんのために(妊娠～出産)、働くお母さんのために(妊娠中～仕事復帰)、赤ちゃんの誕生の際の制度や手続き、健診内容などを掲載。</p> <p><b>健康と医療</b> 健康診査・相談、助成・手当、いざというときに利用できる病児病後児保育などを掲載。</p> <p><b>保育と教育</b> 一時預かり、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、中学校、奨学金など子どもの保育と教育を掲載。</p> <p><b>子育てのつながり</b> 子育て支援拠点、利用者支援事業、サークルや団体など子育て関係の事業や活動を掲載。</p> <p><b>ひとり親家庭</b> 父子・母子家庭などひとり親家庭に関する制度や支援を掲載。</p> <p><b>障害福祉</b> 障害福祉に関する制度や支援を掲載。</p> <p><b>まちの施設</b> 公民館や公園などの公共施設を掲載。</p> <p><b>移住のサポート</b> U・I・Jターンなどの移住に関する制度や支援を掲載。</p> <p><b>その他</b> 子育て通信や各種相談窓口、町役場各課配置図などを掲載。</p> </div> </div>



区分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分類	① 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターンを増やす	小豆島中央病院における医療スタッフの確保

事業名	小豆島中央病院職員採用	
目標数等		
	令和元年度 事業実績 【 評価 B 】	今後の取組み
採用実績(令和元年～2年正規職員採用者)	<p>島内出身者 (10名)</p> <p>看護師 5名</p> <p>看護助手 1名</p> <p>管理栄養士 1名</p> <p>栄養士 1名</p> <p>事務職 2名</p> <p>島外出身者 (7名)</p> <p>医師 4名 (自治医科大学出身 内科2名、整形外科1名、香川大学 小児科1名)</p> <p>看護師 1名</p> <p>管理栄養士 2名</p>	<p>今後も、職員の計画的な採用を行い、不足している職種(医師、看護師等)の募集を行う。</p> <p>募集については学校訪問などのほか、ホームページで求人を探していることが多いため、インターネットでの求人募集を実施する。</p> <p>《問題点》</p> <p>全国的に医療スタッフの偏在があり、過疎地における採用は困難である。また、国家試験の発表が年度末であり、内定しても就職できない場合や併願している場合もあり、内定しても入職しない場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言の影響も考えられる。</p>

区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	① 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターンを増やす	オリーブトッパワンプロジェクトによる担い手の育成

事業名	栽培の基本管理と栽培指導による担い手の育成		
目標数等	H31 栽培面積110ha		
	令和元年度 事業実績 【 評価 B 】	今後の取組み	
<p><b>1. 各種講習会等の開催</b></p> <p>(1) 栽培研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修会: 8/27(12名)</li> <li>・高度化研修会: 9/17(52名)</li> </ul> <p>1/15、1/16(50名)</p> <p>(2) 地区別、時期別栽培管理講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回(果実生育期の管理): 7/29(20名)</li> <li>・第2回(収穫期の管理): 9/20(65名)</li> <li>・第3回(せん定の管理): 2/7、2/9(66名)</li> </ul>		<p><b>1. 各種講習会等の開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定講習会等各種講習会を継続実施する。</li> </ul> <p><b>2. 座談会の開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家を集めた座談会を開催し、栽培者の声を集約する。</li> </ul>	
<p><b>2. 「栽培のしおり」配布(2/7、2/9)</b></p> <p><b>3. オリーブ植栽現地調査による栽培面積の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培面積 98ha</li> </ul> <p>事業自体は8割程度達成したが、目標数に達していないため評価Bにしている。</p>		<p><b>3. 「栽培のしおり」配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培者の基本技術の向上と栽培管理のスキルアップのため、栽培のしおりを配布し、基本栽培の励行を図る。</li> </ul> <p><b>4. オリーブ植栽現地調査による栽培面積の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリーブ植栽現地調査にタブレット1台を導入し、効率化を図る。</li> </ul>	

区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	① 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターンを増やす	各種支援策の実施による新規就農者の確保

事業名	新規就農者支援事業(専業・兼業農家対象)	
目標数等	新規就農 1戸/年の増を目指す	
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】		今後の取組み
<p>新規就農 計画;1戸→実績;4戸(うち、子育て世代1戸)</p> <p>※イチゴの経営2戸、オリーブの経営2戸</p> <p>※家族協定の締結(農業経営の向上を目指す)</p> <p>営農及び耕作地の相談、助言を行う。</p> <p>就農支援:キク栽培の経営支援として、生産性を高める為に栽培管理用設備(内張被覆)の導入費用の補助</p> <p>※生産者1戸 栽培面積4.3a ハウス2カ所</p> <p>※事業主体:認定新規就農者</p> <p>事業費 2,674千円(単県補助事業)</p> <p><b>【参考】</b></p> <p>30年度実績 3戸(うち、子育て世代1戸)の新規就農が図られた。</p>		<p>新規就農見込み 1戸</p> <p>※新規就農での独立経営を目指す。(相談有り)</p> <p>※専業農家で後継者が農業に従事(農業経営の向上を目指す)</p> <p>※遊休農地等のあっせんにより、経営面積の拡大を図る。</p> <p>≪課題≫</p> <p>定年帰農への支援が必要。(定年退職者らによる農の活動)</p> <p>新規就農者へのサポート体制を構築し、経営が安定するまで支援が必要。</p>



区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	① 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターンを増やす	地域医療と福祉の充実のための介護福祉士、社会福祉士等を確保

事業名	介護人材確保対策事業	
目標数等	初任者研修3名、実務者研修5名 初任者研修島内開催事業参加者数20名	
令和元年度 事業実績 【評価 A】		今後の取組み
<p>■介護職員初任者研修受講費助成(継続)</p> <p>※介護職員を志す人が基本的な知識・技術を取得するための初任者研修の受講に要する費用の一部を助成 ※平成31年度は申請がなかった。</p> <p>■介護福祉士実務者研修受講費助成(継続) 11名に対して助成</p> <p>※実務経験を3年以上有する者が介護福祉士の受験資格を取得するための研修受講に要する費用の一部を助成</p> <p>■介護職員初任者研修島内開催事業(継続) 17名が参加(土庄町を含む)</p> <p>※土庄町と合同で、介護職員の初任者研修を島内で開催することにより、受講者の負担軽減を図るとともに、不足している介護職員の確保や資質向上につなげることができた。</p> <p>参加者合計 17名(小豆島町:11名、土庄町:6名)</p>		<p>介護事業所における人手不足の深刻な状況には変わりなく コンスタントに実績を積み上げている介護職員研修受講費の助成事業及び介護職員初任者研修受講の助成事業については継続し、 人員確保の一助となるよう努めます。</p> <p>介護経験のある方など、地域にいる人材情報の収集に努め、 就労につながるよう取り組みます。</p> <p>《問題点》</p> <p>医療・介護に携わる専門職の確保は、今後、ますます厳しくなることが予想されることから、こうした事業を継続しながら 専門職の確保につながる事業を実施していきます。</p>

区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	① 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターンを増やす	新規企業の進出、事業の拡大支援による雇用の創出

事業名	新しい産業づくり条例による産業支援事業	
目標数等	既存企業減免措置: 4件 毎年新規1件 、 起業家支援 毎年1件	
令和元年度 事業実績 【評価 A】		今後の取組み
<p><b>○新規企業の進出、既存企業の規模拡大及び企業に対する支援を実施</b>                  ※小豆島町新しい産業づくり条例の制定(平成25年4月1日施行)</p> <p><b>1. 企業誘致分(設備投資等の優遇措置) 申請件数9件うち9件承認</b>                  助成期間: 6年間【過疎減免による免除期間(3年)を含む】                  内 容: 固定資産税、償却設備の減免延長                  予算状況:【当初対象企業 8件(5,722千円)+新規分(500千円)=6,222千円】                  実 績: 企業誘致助成金確定額 5,332,700円 (9件分)                  NPO法人三都の浜(2施設)、(有)お元気ですかショップ山下、(株)うす家                  (医)一志会、東洋オリーブ(株)、(株)レクザム、宝食品(株)、(有)井上誠耕園</p> <p><b>2. 起業家支援分(起業準備費等補助) 申請件数1件うち1件採択(相談7件)</b>                  予算状況:【当初予算: 新規 2件(上限3,000千円)=6,000千円】                  実 績: 起業家支援助成金確定額 1,083千円 (1件分)                  新規採択事業(令和2年2月10日開催審議会にて承認。)                  ①NPO法人SEEDS OF HOPE 理事長 小泉 敦 補助金確定額 :1,083千円                  『障害者向け多機能型事業所(児童発達支援・放課後デイサービスの一体運営)の開設事業』</p>		<p><b>○今後の予定</b></p> <p><b>1. 企業誘致分(設備投資等の優遇措置)</b>                  企業誘致分支援対象企業への説明(令和3年1月初旬予定)                  ①固定資産税、償却設備減免延長予定企業(9社)                  NPO法人三都の浜(2施設)、(有)お元気ですかショップ山下、(株)うす家                  (医)一志会、東洋オリーブ(株)、(株)レクザム、宝食品(株)、(有)井上誠耕園                  予算: 対象企業10件(5,362千円)+新規分(500千円) = 5,862千円</p> <p><b>2. 起業家支援分(起業準備費等補助)相談受付(通年)</b>                  香川県よろず支援拠点「小豆島サテライト」の活用(毎月第2水曜)※要予約                  知財総合支援窓口「小豆島サテライト」の活用(調整中)※要予約</p> <p><b>《問題点》</b>                  対象企業への周知(町ホームページの活用)                  起業相談件数の増加による対応</p>

区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	② 起業家の移住・定住を促進する	ICTの整備によるサテライトオフィスの促進

事業名	新しい産業づくり事業(起業、設備投資支援)	
目標数等	起業件数3件 ※産業づくり条例との重複あり	
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】		今後の取組み
<p>○移住者による新しい事業の創造を支援し、空き家を活用したオフィスの整備など、自宅での就労ができることで、安心して子育てができるとともに、新たな起業を促進する。</p> <p>・令和元年度の新しい産業づくり条例の起業化支援制度を活用して、これまで小豆島町内で実施されていなかった「障害者向け多機能型事業所」の開業に向け、準備を進めた。</p> <p>・空き家バンクを利用して移住した方が、空き家や空き店舗をリフォームし、店舗をかまえた。</p> <p>※「カフェ」 空き家を改装し、海を見渡せるオープンデッキのあるカフェを開店(平成30年7月)</p> <p>※「美容室」 空き店舗を改装し、美容室を開店(平成31年4月)</p> <p>・空き家バンク以外</p> <p>※草壁港の乗船券売り場2階の空き店舗を改装し、レストランをオープン(令和元年5月)</p>		<p>・引き続きNPO法人トティエと連携し、空き家・空き店舗等の活用によるオフィス転用を推進する。</p> <p>・NPO法人トティエが運営管理を行うお試しサテライトオフィスを、旧JA坂手2階にオープン予定。</p> <p>・香川県企業誘致推進協議会による展示会(ファベックス関西等)への出展やサテライトオフィス先進地から情報収集を行う。</p> <p>・「障害者向け多機能型事業所」では、障害のある子どもやその親が、地域の中で安心して生活できるように、児童発達支援及び放課後等デイサービス事業を実施する。将来的には、不登校児や孤立した高齢者の受け入れ事業への展開も視野に入れている。(令和2年4月1日～事業開始)</p> <p>≪課題≫ オフィス転用可能な空き家・空き店舗の確保。</p>

区分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分類	② 起業家の移住・定住を促進する	NPO法人などとの連携による移住促進

事業名	移住者(U・J・Iターン)パワーによるまちづくり	
目標数等	移住者数(Iターン・Jターン) 年間100人を維持	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
<p>○小豆島の優れた自然、伝統や文化、暮らしを守り、さらに発展していくために、他団体と連携し、小豆島にはない新しい視点によって地域の活性化を図った。</p> <p>・地域おこし協力隊が平成28年4月に設立した移住・定住促進団体であるNPO法人トティエと小豆島町が連携し、空き家バンク活用の促進サポートや移住体験施設の運営、移住交流イベントの実施など、移住定住施策に取り組んだ。                  移住体験施設稼働率(令和元年度)61.12%                  ・平成29年7月より廃業旅館を活用した就労者向け滞在施設「うえむらシェアハウス」をオープンし、「住まい」の確保と企業の人材誘致による「雇用」の創出を図っている。整備運用に関しては、NPO法人トティエと連携して行っている。                  就労者向け滞在施設「うえむらシェアハウス」稼働率(令和元年度)71.7 %</p> <p>・令和元年度の移住者数                  Uターン83名、Iターン134名</p>		
 <p>就労者向け滞在施設「うえむらシェアハウス」</p>		
<p>・移住定住促進団体であるNPO法人トティエと連携し、民間の柔軟な発想や創意工夫により、移住定住促進施策を行う。NPO法人トティエの主な事業として、移住体験施設の運営や島暮らし体験ツアー、移住交流イベントの開催、空き家バンクの登録サポートを行う。</p> <p>・有能な人材を呼び込み、新たな起業を促進するとともに、地場産業の担い手不足解消を図る。</p> <p>・国の地方創生推進交付金を活用したUターン支援施策を行う。</p> <p>・空き家改修補助要件を拡充し、空き家バンク物件を購入したUIJターン者も対象にし、移住者数と定住率アップを図る。</p>		

区分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分類	② 起業家の移住・定住を促進する	空き家バンクを充実し移住・定住を促進する

事業名	小豆島町空き家バンク事業	
目標数等	年間新規登録件数 20件以上	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>○町内に在る空き家の有効活用を通して、交流人口の拡大および定住促進により地域の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人トリエの協力により空き家バンク募集チラシを作成。</li> <li>・町広報8月号に空き家バンク募集チラシの折り込み。</li> <li>・令和元年度実績                      新規登録件数: 54件(うち再登録23件)                      契約成立件数: 43件(賃貸29件、売買14件)</li> <li>・空き家バンク登録数: 318件(令和元年累計)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家改修補助制度の活用や、NPO法人トリエとの連携による空き家データベースのスクリーニングや空き家バンクへの登録サポート等により、空き家バンクの新規登録件数を確保する。</li> <li>・空き家巡回相談を実施し、活用できそうな物件を掘り起こし、空き家バンクへの登録促進活動を行う。</li> </ul>
	 <p>空き家バンク募集チラシ</p>	






区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	③ 地場産業の強化	異業種との連携により新商品を開発

事業名	地場産業活性化セミナーの開催、異業種交流事業	
目標数等	地場産業活性化セミナーの開催：毎年3回程度、地場産業座談会の開催：毎年3回程度(平成30年度をもって廃止)	



令和元年度 事業実績 【評価 A】	今後の取組み
<p><b>○島内外異業種間の交流による情報共有⇒基幹産業の発展</b></p> <p><b>1. 地場産業活性化セミナーの開催</b></p> <p>① 日 時：令和元年6月2日(日)13:00～15:30 主催：小豆島町商工会青年部 場 所：小豆島ふるさと村ワインハウス 講 演：「10年後、君に仕事はあるのか」 講 師：藤原 和博(教育改革実践家) 出席者：67名</p> <p>② 日 時：令和元年8月27日(木) 13:30～15:30 主催：知財総合支援窓口 場 所：小豆島町役場西館 講 演：「小豆島ブランドを世界に！」 講 師：レクシア特許法律事務所 山田 威一郎(弁理士) 出席者：19名</p> <p><b>2. 地域振興アドバイザーによる企業訪問(13社訪問)</b> 小豆島町地域振興アドバイザーによる企業訪問を行い、町内企業の技術的課題解決に向けたアドバイスや情報提供を実施。</p> <p><b>3. 小豆島地場産業担い手育成事業「中川塾」の開講</b> 6月から計10回開講し、2月にスーパーマーケットトレードショーに中川塾で出展。 受講者数：町内若手事業者28名</p> <p><b>4. 小豆島ブランディングセミナーの開催</b></p> <p>① 日 時：令和元年8月28日(水)11:00～ 講師：竹内哲也 氏 講 演：「外から見た小豆島ブランドの魅力について」 出席者：40名</p> <p>② 日 時：令和元年10月23日(木)18:30～ 講師：山口綱士 氏 講 演：「地域ブランディング5.0」 出席者：60名</p>	<p><b>○今後の予定</b></p> <p>1. 地場産業活性化セミナーの開催(年間3回程度) ⇒地域振興アドバイザー、関係支援機関職員同行による企業訪問 において、小豆島の基幹産業が抱える課題、要望を元に開催。</p> <p>2. 小豆島地場産業担い手育成事業「中川塾(実践編)」の開講(継続) ⇒小豆島町出身の中川晋氏を塾長に迎え、地域の次世代を担う経営者の育成を目的に経営塾を開講。 参加者：これまでに中川塾を受講した塾生を中心に選抜者で構成 期 間：令和2年6月～令和3年3月 毎月1回程度 定 員：25名程度 内 容：①小豆島ブランドの確立に向けた検討 ②商談展示会への企画・参加 ③島内食品産業のPR ④各産業界の外部講師による講演</p>




区 分	働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出	
分 類	③ 地場産業の強化	地場産業についての学習を深めることにより後継者を育成する

事業名	地場産業への関心	
目標数等		
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p><b>○町内小学生に対し、地場産業への関心を高める取組み</b></p> <p>1. 第8回醤の郷まつりの開催・協力 ※主催:小豆島町商工会                  日 時:平成31年4月27日(土)                  場 所:醤の郷エリア(古江～苗羽)                  内 容:「絵葉書(醤の郷の風景)コンクール」の開催 応募数:445通</p>  <p>2. 小豆島の新食材「長命草」の苗木配布(新入生200名)                  日 時:平成31年4月8日 島内の全小学校入学式にて配布                  主 催:小豆島食材開発会議(島内の食品製造会社で組織)</p>  <p><b>○商工業者・団体との連携による地場産業の振興</b></p> <p>1. 島めしフェスティバル2019の開催                  日 時:令和元年9月29日(日)                  場 所:小豆島ふるさと村                  主 催:島めしフェスティバル実行委員会 協力:各食品組合                  小豆島調理食品工業組合を中心に、島内食品産業のPRを目的に開催。</p>  <p>2. 第14回小豆島町ふるさと商工まつりの開催                  日 時:令和元年10月27日(日) 来場者数:延べ9,000人                  場 所:小豆島ふるさと村 イベント広場 出店:52団体 フリーマーケット:11団体                  子どもたちを含めた町民に地場産業の理解とふれあいを図るため、イベントの開催。</p>	<p><b>○今後の予定</b>                  商工会と連携し、各種イベントにおいて、地域住民(後継者)に対して地場産業(醤油、佃煮、素麺など)についての知識や愛着が持てるよう企画し学習できる場を提供する。</p> <p>1. 小豆島の新食材『長命草』の苗木を新入生に配布(継続)                  日 時:令和2年4月6日予定                  ※ 同日土庄町の新入生にも配布予定。</p> <p><b>○イベント予定</b></p> <p>1. 第9回醤の郷まつりの開催【中止】                  日 時:令和2年4月25日(土) 9時～15時30分                  場 所:醤の郷(発酵食品研究所～岡田武市商店までの8会場)</p> <p>2. 島めしフェスティバル2020                  日 時:令和2年10月下旬                  場 所:小豆島オリーブ公園</p> <p>3. 第15回小豆島町ふるさと商工まつり                  日 時:令和2年11月1日予定 場 所:小豆島ふるさと村</p>

区分	男女共同参画の実現	
分類	① 育児・家事の役割分担	父親、祖父母に対する育児啓発の実施

事業名	子どもが健やかに育つ環境づくり	
目標数等	食を通じた男女共同参画の啓発 事業の参加者数 H27年度428人からH31年度500人にする。 父親が育児を「よくやっている」と考える家庭を、H27年度64.2%からH31年度70%にする。 虐待防止等ネットワーク会議における虐待関係機関との連携強化	
令和元年度 事業実績 【 評価 B 】		今後の取組み
<p>①多世代にわたる食育活動として、食の教室K'sキッチン、健康教室、サロンでの講話や料理教室等を実施。家庭での生活習慣を振り返り、食生活を見なおすきっかけづくりの支援を行っている。</p> <p>実績・K'sキッチン成人コース (9回) 89名                  ・啓発活動 (がん予防食) (4回) 172名                  ・乳幼児栄養指導 (29回) 399名 計660名</p> <p>②子育てに不安を抱える人が早期に相談につながるよう、母子手帳発行、妊婦健康診査、乳幼児健診、育児相談事業等を通し、子育てや虐待の相談窓口を情報提供し、虐待予防を啓発。また、虐待等ネットワーク会議による関係機関との強化を図った。</p> <p>実績・母子手帳交付 71件                  ・妊婦健康診査(2月末現在)802人                  ・乳児家庭全戸訪問事業 67人                  ・養育支援訪問事業(のべ)18回                  ・支援センター相談(24回)133人                  ・乳幼児健診(17回) 338人                  ・すくすくルーム(12回) 61人                  ・虐待防止啓発活動 6回                  ・児童虐待部会 1回                  ・父親が育児をよくやっていると考える家庭 68.3%</p>		<p>・多世代にわたる食育の啓発                  ・イベントを活用した虐待防止キャンペーンの実施                  ・子育て支援、虐待防止に係る支援者のスキルアップ</p>
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【虐待防止等ネットワーク会議】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【K'sキッチン】</p> </div> </div>

区分	男女共同参画の実現	
分類	① 育児・家事の役割分担	「意識改革」「ワーク・ライフ・バランス」「人権を大切にするまちづくり」の一体的な取り組み

事業名	いきいきプランの実践	
目標数等	男女がお互いに尊重しあい、活躍できる社会にする	
	令和元年度 事業実績 【 評価 B 】	今後の取組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>●男女共同参画週間事業 図書館でのロビー展(6月1日～7月19日) ・男女共同参画に関する書籍の設置</li> <li>●男女共同参画推進講演会 ・性別に囚われず誰もが輝いて活躍できる社会の実現を目指した講演会 【開催日】令和元年7月11日(木) 【講師】社団法人LGBT協会 代表理事 清水展人氏 【内容】LGBTを含めた多様な性のあり方を知ることにより、性別に囚われず自分らしく生きることの気運が高まった。 【参加人数】147名</li> <li>●「パパと子どものクッキング」 ・男女共同参画の意識を高めるためにパパと子どもが調理実習を行い、母親はリフレッシュ講座を実施。</li> </ul>	  	<ul style="list-style-type: none"> <li>●男女共同参画週間事業 引き続き、男女共同参画に関する書籍の展示・貸出しを行う。</li> <li>●男女共同参画推進講演会 ・男女が共に子育て・介護などを行う意識の醸成を目指した講演会 【開催日】令和2年12月5日(土) 【講師】NPO法人 タイガーマスク基金 代表理事 安藤哲也氏 【会場】サン・オリーブ</li> <li>●「パパと子どものクッキング」の実施 引き続き、男女共同参画の意識を高めるために、パパと子どもの調理実習と母親のリフレッシュ講座を実施する。</li> <li>●「交流会・セミナー」の実施 引き続き、女性の社会参画等を推進するための交流会・セミナーを実施する。</li> <li>●ワーク・ライフ・バランス研修の実施 引き続き、仕事と生活の調和の意義・必要性を理解してもらうために研修を実施する。</li> <li>●虐待防止等ネットワーク会議との連携を強化 引き続き、各種イベント等にて啓発活動を実施する。</li> </ul>   
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「アンガーマネジメントセミナー」 ・女性の社会参画等を推進するための交流会・セミナー 【開催日】令和2年2月8日(土) 【講師】高松太田社労士事務所 谷川由紀氏 【内容】イライラや怒りの感情を解消する心理トレーニング 【参加人数】23名</li> <li>●ワーク・ライフ・バランス研修の実施 ・男女があらゆる分野に参画する意識を醸成するための講演会 【開催日】令和元年9月26日(木) 【講師】高松太田社労士事務所 谷川由紀氏 【内容】ワーク・ライフ・バランスの必要性やハラスメントの講演。 【参加人数】57名</li> <li>●虐待防止等ネットワーク会議との連携を強化 ・虐待防止の啓発活動 オリーブ収穫祭、商工まつり、しあわせづくり講演会など</li> </ul>	  	<p>＜課題＞参加者の固定化。</p>

区 分	男女共同参画の実現	
分 類	① 育児・家事の役割分担	助産師等によるプレママ・プレパパのマタニティ教室の開催 父親、祖父母に対する育児啓発の実施



事業名	マタニティ教室	
目標数等	父親の参加割合H26:10%→H31:30%	
令和元年度 事業実績 【評価 B】		今後の取組み
月2回開催 (参加者数) マタニティクラス I 2名 マタニティクラス II 19名(妊婦16、夫3) →父親の参加率:14.28%		令和2年度も産婦人科外来において月2回実施予定。  ≪問題点≫ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として一時的に受入れを 休止している。



区 分	男女共同参画の実現	
分 類	② 産後ケア	子育てに対する不安解消のための産後ケア事業の実施

事業名	産婦健康診査・産後ケア事業の実施	
目標数等		
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>平成31年度から、産婦の産後うつ等の早期発見・予防や育児不安を軽減することを目的に、産婦健診を各医療機関で実施している。 また産後の母子を対象に、指定の医療機関や助産所に、宿泊や通所でケアが受けられる「産後ケア事業」を実施している。</p> <p><b>[ 産婦健診 ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間健診: 受診者数22名</li> <li>・1か月健診: 受診者数17名</li> </ul> <p><b>[ 産後ケア事業 ]</b></p> <p>申請者0名</p> <p>&lt;からだのサポート&gt; 母親と乳児の体調管理、授乳相談など</p> <p>&lt;こころのサポート&gt; 母親の心の休養、育児相談など</p> <p>&lt;育児のサポート&gt; 沐浴や、自宅での子育てや生活面の助言など</p>	<p>今後も母子手帳交付時や健診・訪問時に周知し、産後ケア事業の利用を希望する母子に支援できるよう努める。</p>

区分	男女共同参画の実現	
分類	② 産後ケア	育児疲れをリフレッシュするための託児サービスの実施



事業名	託児サービスの実施																										
目標数等	H31 託児ボランティア登録数 20人																										
令和元年度 事業実績 【 評価 B 】		今後の取組み																									
<p>●託児サービス 託児ボランティア事業を実施し、町が主催する事業に参加しやすいようにした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>事業名</th> <th>託児(人)</th> <th>託児ボランティア(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/11(木)</td> <td>講演会</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>7/27(土)</td> <td>講演会</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>9/ 8(土)</td> <td>パパと子どものクッキング</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>9/16(月)</td> <td>講演会</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2/ 8(土)</td> <td>アンガーマネジメントセミナー</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 		実施日	事業名	託児(人)	託児ボランティア(人)	7/11(木)	講演会	0	0	7/27(土)	講演会	0	0	9/ 8(土)	パパと子どものクッキング	3	2	9/16(月)	講演会	3	2	2/ 8(土)	アンガーマネジメントセミナー	13	4	<p>●託児サービスを実施。 引き続き、各種事業に参加しやすいよう託児所を開設する。</p> <p>●託児ボランティアの募集を継続して行い、事業を充実させる。</p>	
実施日	事業名	託児(人)	託児ボランティア(人)																								
7/11(木)	講演会	0	0																								
7/27(土)	講演会	0	0																								
9/ 8(土)	パパと子どものクッキング	3	2																								
9/16(月)	講演会	3	2																								
2/ 8(土)	アンガーマネジメントセミナー	13	4																								
<p>●託児ボランティアの募集 託児ボランティアの募集について広報誌等に掲載し、ボランティアを継続して募集した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>登録者数(人)</th> <th>累計(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R元年度</td> <td>2</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> 		実施日	登録者数(人)	累計(人)	H29年度	11	11	H30年度	1	12	R元年度	2	14														
実施日	登録者数(人)	累計(人)																									
H29年度	11	11																									
H30年度	1	12																									
R元年度	2	14																									

区分	男女共同参画の実現	
分類	③ 地場産業の強化	地場産業についての学習を深めることにより後継者を育成する

事業名	地場産業の学習による後継者育成事業	
目標数等	各小中学校の総合的な学習の時間等を活用し、継続して事業を行う。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>各小中学校の実態に応じて、関係学年の総合的な学習の時間に地場産業の学習を実施した。後継者育成につなげるために、地域と人の出会いやその思いなどにふれる機会を設けた。</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 4年:「いろいろな職業の見学を通して働いている人の思いを知り、自分たちの生活に生かす」年間70時間(素麺、オリーブ他)</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」※ふるさと学習として年間55時間 3年:「小豆島の宝～しょうゆ～」年間55時間 4年:「ふるさとの魅力を探ろう～オリーブ～」年間55時間</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年:「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 5年:「安田の郷から発信！安田小農業プロジェクト」年間45時間 6年:「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年:「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年:「オリーブのひみつを探ろう」年間70時間 6年:「ふるさとのよさを多くの人に伝えよう」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」 1年:「ふるさとについて調べよう」年間12時間 2年:「職場体験活動」年間28時間 学習成果をまとめ、学年発表会、人権集会において発表を行った。</p>	<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。 ※4・5月の臨時休業により、時間数を調整中</p> <p>○池田小学校 「いくた学習」 4年:「いろいろな職業の見学を通して働いている人の思いを知り、自分たちの生活に生かす」年間70時間(素麺、オリーブ他)</p> <p>○星城小学校 「星っ子タイム」 3年:「星っ子しょうゆ物語」年間55時間 4年:「小豆島の宝～オリーブ～」年間55時間</p> <p>○安田小学校 「安小わくわくワークス」 3年:「オリーブの素晴らしさを私たちの手で広めよう！」年間45時間 5年:「海とともに 生きる わたしたち」年間45時間 6年:「築いていこう！輝く次世代小豆島」年間45時間</p> <p>○苗羽小学校 「ひしおの里学習」 3年:「しょうゆ博士になろう」年間70時間 4年:「オリーブのすごさをみんなに伝えよう」年間70時間 6年:「伝えようふるさとのよさ」年間70時間</p> <p>○小豆島中学校 「うしお学習」 1年:「ふるさとについて知ろう」年間6時間 2年:「職場体験活動」年間26時間 学習成果をまとめ、学年発表会、人権集会において発表を行う。</p>



区分	男女共同参画の実現	
分類	③ 地場産業の強化	様々なメディア(SNS、ツアー企画等)により情報を発信する






事業名	小豆島町地場産業PR事業	
目標数等	情報エリアを拡大する	
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】		今後の取組み
<p>○既存のHP等にとどまらず、プレストリップの活用・SNSを使った発信・拡散、当該企業とのツアー企画実施によるファン作り等、情報流通を増やし地場産業のPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレストリップによる情報発信(取材件数:雑誌・ウェブなど4件)</li> <li>・SNS (facebook、Instagram、twitterなど)を使った情報発信を行うことで、今までHPに限定されていた情報をHPを閲覧しない方々にも広めることができた。</li> <li>・ふるさと納税制度において地場産品を活用することで、小豆島の魅力を発信し、産業の活力を生み出した。(令和2年3月末現在 ふるさと納税件数:8,363件、金額:178,359千円)</li> <li>・都市部で実施する香川県及び小豆島への移住に関するフェアで島の産業や暮らしに関するPRを行った。</li> <li>・仕事場や空き家見学、先輩移住者との交流等を行う小豆島移住ガイドセミナーを年5回(7月、9月2回、11月、12月)実施した。(参加者:27組 47名 うち子供9名)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレストリップによる取材を通して地場産業をPRする。</li> <li>・SNS (facebook、、Instagram、twitterなど)の活用により、全国に小豆島の魅力や情報を発信する。</li> <li>・都市部で移住希望者に対して島の産業や暮らしに関するPR活動を実施する。</li> <li>・小豆島移住ガイドセミナーを毎回テーマを絞り年4~5回実施し、ハローワークや起業と連携し職場や産業の紹介を行う。</li> <li>・オンライン移住相談を行う。</li> </ul>
 <p>小豆島町広報ブログ「まちの付箋紙」</p>		 <p>小豆島移住ガイドセミナー</p>

区分	地域による応援	
分類	②世代を超えた交流	小豆っこ誕生プロジェクト



事業名	小豆っこ誕生プロジェクト											
目標数等	平成27年度から実施											
	令和元年度 事業実績 【 評価 B 】	今後の取組み										
	<p>町に生まれるお子さまに感謝し、未来を応援したいという思いから立ち上がった「小豆っこ誕生プロジェクト」では、「小豆島で子育て・子育てをしたい」「島に生まれてきてよかった」という思いを広げるために、島の魅力を感じるお祝いづくりに取組んでいる。</p> <p>当初は出生届時に贈呈していたが、子どもの物を管理するのは母親が行うことが多いため、平成28年8月から2か月相談（すくすくルーム）で贈呈するように変更し、職員が母親の顔を見ながら企画の意図を説明し、直接贈呈している。</p> <p>《贈呈数》</p> <table border="1"> <tr> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> </tr> <tr> <td>81</td> <td>75</td> <td>77</td> <td>72</td> <td>69</td> </tr> </table> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年度の3月生まれの対象者への贈呈は7月の4か月時に変更。（贈呈数には含む）</p> <p>《今年度の製作内容》</p> <p>今年度から職員が制作するよう変更になったため、前年度のイベントで行ったアンケートでの意見や今までの振り返りながら制作を行っている。現在使用している在庫が無くなり次第切り替える予定。</p> <p>《課題》</p> <p>対象者に意識調査などを行い実施した事業ではないため、制作したものが贈呈された人にとって活用したくなるものなのか、過去の贈呈者を対象にアンケートが必要。（令和元年度に予定していたが、実施できなかった）</p>	H27	H28	H29	H30	R1	81	75	77	72	69	<p>・子どもが誕生した際に送られるオリーブの苗木とともに町独自の取り組みなので、島外にアピールする材料として積極的に活用する。</p> <p>・贈呈者全体へのアンケートを実施できていないので、アンケートを実施し、さらに有意義な物にできるよう振り返る機会を設けて、今後へ生かしていく。</p> <p>《今までの製作》</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>平成26年度：岡村美紀 絵画教室に通う生徒と協同で製作</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>平成27年度：小豆島カメラ 「見たい！会いたい！食べたい！」</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>平成28年度：danny(ダニー) 「小豆島の風景」</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>平成29年度：濱田英明 「これから生まれてくる子どもたちに残したい小豆島の写真」</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>平成30年度：新井良治 「小豆島に生まれてきてくれてありがとう！」</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>定番となっている木箱 母子手帳や病院で配られるへその緒の箱を入れることができる木箱をベースに、中身のカードを毎年製作している。R1RR</p> </div> </div>
H27	H28	H29	H30	R1								
81	75	77	72	69								



区分	地域による応援	
分類	②世代を超えた交流	坂手多世代交流・多機能型支援モデル(遊児老館を利用した子育て支援)

事業名	多世代交流・多機能施設整備事業	
目標数等	年間利用者数を 当初の200人(月平均16人) から 600人(月平均50人) にする	
	令和元年度 事業実績 【 評価 C 】	今後の取組み
<p><b>利用者1,665人(内、子育て関係の利用358人)</b></p> <p>※令和2年3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各団体ともに使用していない。</p> <p>《主な利用状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回 高齢者対象のサロン活動を実施(月平均30人程)</li> <li>・毎月1回 小豆島町あいいく会のあいいく広場を実施(月平均52人程)</li> </ul> <p>【過年度の利用人数】</p> <p>平成27年度: 565(内、子育て関係の利用32人)</p> <p>平成28年度: 785(内、子育て関係の利用112人)</p> <p>※平成28年2月～7月まで改修工事</p> <p>平成29年度: 911人(内、子育て関係の利用213人)</p> <p>平成30年度: 1,817人(内、子育て関係の利用635人)</p> <p>《子育ての場としての活用》</p> <p>子育て共育課としての活用はなかったが、子育て関係の利用の635人は、小豆島町あいいく会が毎月行っているあいいく広場の開催場所として利用した人数である。</p> <p>定期的な利用者の中で最も集客があり、さまざまな地区から世代を問わずに親子や会員が参加されているということもあり、とても有意義に利用していただいた。</p>		<p>平成31年4月から施設の管轄が企画財政課から社会教育課に変更になったが、引き続き、住んでいる場所や世代を問わず、雨の日にも利用できる子育て集いの場として活用する。</p> <p>併設する小規模多機能施設や、現在館を利用している地元のサロン活動団体とも協力して、子どもから大人、高齢者、障害者などすべての人が集える場づくりに取り組む。</p>  <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な利用者が固定化している。施設の活用を広く周知し、さまざまな世代・団体での活用を推進していかなければならない。また、多世代交流を目的とした取組が出来ていないので、各関係機関と連携をとりながら行う必要がある。</li> <li>・駐車スペースが狭い点は、運動場を利用することで一定改善できたが、雨天時に運動場を利用した場合、轍を修復する手間を利用者をお願いすることになり、引き続き約400m離れた町営駐車場の利用にも理解を得る必要がある。</li> </ul> 
		
	 	

区分	地域による応援	
分類	② 世代を超えた交流	学校支援ボランティアを積極的に活用し地域のつながりを深める


事業名	学校支援ボランティア等による地域・世代交流事業	
目標数等	学習支援ボランティア等を活用し、継続して事業を行う。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>小・中学校において、積極的に学校支援ボランティア等の地域人材の活用を図り、児童生徒と地域の様々な世代の大人との交流を行った。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○池田小学校 登下校時の見守り隊、本の読み聞かせ、校内の花のいけ込み</li> <li>○星城小学校 登下校時の見守り隊、本の読み聞かせ、老人クラブと交流(11月)、しめ縄作り(12月)ほか</li> <li>○安田小学校 登校時の見守り隊、本の読み聞かせ、田植え等(5～7月)、稲刈り(10月)ほか</li> <li>○苗羽小学校 登校時の見守り隊、クラブ活動指導(スポーツ、茶華道、和楽器、家庭) 校内の環境整備、書写指導(4年以上)</li> <li>○小豆島中学校 部活動指導(陸上、バレー、バスケット、剣道、野球、コーラス)常時</li> </ul> <p>※登下校時の見守り隊は毎日、書写指導は週1回、クラブ活動は2週に1回程度、本の読み聞かせは月に数回、校内環境整備は定期的実施した。</p>	<p>小・中学校において、継続して学校支援ボランティア等の地域人材の活用を図り、児童生徒と地域の様々な世代の大人との交流を促進する。</p> <p>各小中学校において、定期的なものは継続して実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○池田小学校 登下校時の見守り隊、本の読み聞かせほか</li> <li>○星城小学校 登下校時の見守り隊、本の読み聞かせ、しめ縄作り(12月)ほか</li> <li>○安田小学校 登校時の見守り隊、本の読み聞かせほか</li> <li>○苗羽小学校 登校時の見守り、クラブ活動指導、校内の環境整備、書写指導</li> <li>○小豆島中学校 部活動指導</li> </ul> <p>※登下校時の見守り隊は毎日、書写指導は週1回、クラブ活動は2週に1回程度、本の読み聞かせは月に数回、校内環境整備は定期的実施する。</p> 

区分	地域による応援	
分類	② 世代を超えた交流	介護施設への訪問、交流の実施

事業名	介護施設への訪問・交流	
目標数等		
	令和元年度 事業実績【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>町内の幼稚園・保育所・認定こども園で実施している。施設を訪問し交流や催し物を披露したり、園・所の行事へ招待し子どもたちとの交流を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小豆島こどもセンター 宝寿園やサン・リゾートを訪問、センターの行事に参加</li> <li>●内海保育所 マリアの園を訪問</li> <li>●安田幼稚園 老健うちのみを訪問</li> <li>●苗羽幼稚園 マリアの園やはまひるがお坂手を訪問</li> <li>●福田こども園 はまひるがお福田を訪問</li> <li>●せいけんじこども園 サンシャインやグループホーム青空を訪問、園の行事に参加</li> </ul>	<p>継続して実施し、世代間交流を深める機会を充実させていく。</p> <p>* 新型コロナウイルス感染症対策のため、実施時期を検討中。</p>



区分	地域による応援	
分類	② 世代を超えた交流	ブックスタート事業

事業名	ブックスタート事業	
目標数等	町内で生まれたすべての赤ちゃんに絵本を手渡し、絵本を介して赤ちゃんと保護者が心ふれ合うひとときをもつ機会を提供する。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡し、絵本を開く楽しい体験と一緒に、心ふれ合うひとときをもつきっかけを作る活動。 絵本を介して、赤ちゃんと保護者が心ふれ合うひとときをもつことで、親子の愛情形成の手段の一つとする。 小豆島町では4か月児健診に図書館職員が出向き、保護者へ事業の説明をするとともに一人ひとりの赤ちゃんに読み聞かせを行った。</p> <p>第1回 5月29日 健診参加者 17名 欠席3名 第2回 7月31日 健診参加者 10名 欠席1名 第3回 9月18日 健診参加者 10名 欠席3名 第4回 11月20日 健診参加者 16名 欠席0名 第5回 1月29日 健診参加者 8名 欠席2名 第6回 3月18日 健診参加者 9名 欠席1名</p> <p>欠席者には次回以降の健診で渡すことができている。令和元年度の提供率は98%であった。 実際に一人ひとりに読み聞かせを行うことで、赤ちゃんが絵本を楽しんでいる姿を感じてもらうことができている。読み聞かせをした時の赤ちゃんの反応の良さに驚いたお母さんお父さんは、絵本を選ぶ際に絵本を見せて反応がよい絵本を選んでいる。お母さんだけでなく、お父さんも事業の説明を熱心に聞いてくれる。赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむ方法を月齢に合わせた絵本を紹介しながら説明している。 アンケートの結果、すべての保護者が「ブックスタートはとてもよかった」「家でも読み聞かせをぜひしたいと思う」と回答している。ブックスタートを行った後日、図書館へ来館し、赤ちゃん絵本を借りる親子が増えている。ブックスタートへの関心が高いようである。</p>	<p>● 来年度以降も継続して実施していく。</p> <p>《問題点》 健診不参加児へのアプローチ</p> 

区 分	地域による応援	
分 類	③ 豊富な経験・知識の活用	地域の高齢者と昔あそび通じて地域とのコミュニケーションを図る


事業名	地域の高齢者等との交流による豊かな体験事業	
目標数等	地域の高齢者等を活用し、継続して事業を行う。	
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】		今後の取組み
<p>各小中学校において、地域の高齢者との交流を通して豊かな体験活動を行い、先人の知恵を学んでいく機会を設けた。</p> <p>○池田小学校 5年総合的な学習の時間に、高齢者との交流(9月)</p> <p>○星城小学校 5年総合的な学習の時間に高齢者との交流(11月) しめ縄作り(12月)</p> <p>○安田小学校 1、2年生活科の時間にさつまいものつるさし、収穫(6月、11月) 5年総合的な学習の時間に米づくりを通して高齢者との交流(通年)</p> <p>○苗羽小学校 4クラブで地域指導者による指導を実施。 スポーツ・・・グランドゴルフ 家庭クラブ・・・郷土料理 和楽器クラブ・・・琴、三味線 茶道・華道クラブ・・・茶道・華道 (クラブ活動は2週に1回の頻度)</p> <p>○小豆島中学校 生徒会主催で豊寿園訪問交流(7月)</p>		<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。</p> <p>○池田小学校 5年総合的な学習の時間に、高齢者との交流(予定)</p> <p>○星城小学校 5年総合的な学習の時間に高齢者との交流(予定) しめ縄作り</p> <p>○安田小学校 1、2年生活科の時間にさつまいものつるさし・収穫(予定)</p> <p>○苗羽小学校 4クラブで地域指導者による指導 (グランドゴルフ、郷土料理、和楽器、茶道・華道)</p> <p>○小豆島中学校 生徒会主催で豊寿園訪問交流(予定)</p>





区分	地域による応援	
分類	③ 豊富な経験・知識の活用	学校支援ボランティアによる登下校時の見守り、放課後巡回等

事業名	学校支援ボランティアによる子ども見守り事業	
目標数等	全ての授業日に、見守りを実施する。	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
<p>学校支援ボランティア等の地域の大人で児童生徒の登下校時の見守りを行い、地域ぐるみで子どもたちを育てていく。</p> <p>4小学校で登校時に通学途中の四つ角等に立ち、声をかけるなどして子どもたちの交通事故防止等に努めている。1小学校では、下校時にも通学路で立哨を実施している。</p> <p>○池田小学校 (学校支援ボランティア登録:9名 実施日数:197日) 常時登下校時、学校近くの四つ角等4か所 7時30分～8時、 1年下校時、2・3年下校時、4・5・6年下校時 常時7名程度 常時登校時、登校途中の横断歩道 7時20分～7時45分 常時1名</p> <p>○星城小学校 (学校支援ボランティア登録:62名 実施日数:196日) 常時登校時、登校途中の四つ角や学校前等8か所 7時30分～7時50分 常時10名程度</p> <p>○安田小学校 (学校支援ボランティア登録:6名 実施日数:196日) 常時登校時、登校途中の四つ角とスクールバス乗車場 7時15分～7時50分 常時4名程度</p> <p>○苗羽小学校 (学校支援ボランティア登録:10名 実施日数:120日) 週3回(月・水・金)、登校時、登校途中の横断歩道 7時20分～7時50分 常時1名</p>	<p>● 各小学校において、継続して実施していく。</p> <p>≪問題点≫ 学校支援ボランティア登録者の減少。</p> 



区分	子育ての環境づくり	
分類	①誰もが集まりたくなる場所を作る	

事業名	あいいく会活動の推進	
目標数等	あいいく広場を12回/年開催する。 クリスマス会や子育てカレッジ講演会など三世代が交流できる活動を実施。 2か月児相談等の母子保健事業への年6回以上の参加。	

令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
---------------------	--------

●令和元年度はあいいく広場を計11回実施。ベビーマッサージなどを通して親子でのスキンシップを楽しむことができた。その他にもランチ会や小児科医との座談会などを実施し、日頃の子育てについて相談や情報交換できる場となった。

- 月1回のあいいく広場の継続(第2木曜日に遊児老館の予定)  
他 日時、場所、内容など会員の要望を集計し計画する。
- 多世代が交流できるイベントとしてクリスマス会を開催(12月)  
民生委員など他団体への協力も依頼し、地域のつながりを広げる。
- 2か月児相談への参加を継続。

月日	内容	参加者数
4月6日	オリーブ公園で花見	大人15名 子ども22名
5月9日	ベビーマッサージ、茶話会	大人12名 子ども7名
6月13日	ベビーマッサージ、手作りランチ会 アロマスプレーワークショップ	大人24名 子ども14名
7月11日	ベビーマッサージ、手作りランチ会 応急処置講習会	大人20名 子ども17名
8月8日	ちびっこ夏祭り	大人45名 子ども40名
9月12日	小児科医山本先生との座談会、昼食会 中学生の職場体験交流会	大人12名 子ども10名
10月17日	ハロウィンパーティ 手作りランチ会	大人18名 子ども9名
11月17日	手作りランチ会 子ども用品フリーマーケット	大人23名 子ども19名
12月12日	コモノヤワークショップ、手作りランチ会 プチ忘年会	大人17名 子ども10名

月日	内容	参加者数
令和2年 1月9日	新年会 福祉施設4か所慰問	大人10名 子ども6名
2月13日	あいいく広場おもちゃ除菌作業 昼食会	大人11名 子ども4名
3月12日	コロナ感染防止のため中止	大人0名 子ども0名



●「親子で挑戦！初めてのアウトドアクッキング」を開催。平日参加できない小学生親子や父親も多く参加し、楽しみながら家族間交流や父親の家事・育児参加のきっかけづくりになった。

日時:11月9日 場所:ふるさと村 参加者数:66名






●12月にクリスマス会を開催。会員以外の親子や、民生委員をはじめ地域の方もお手伝いスタッフとして参加。多世代で交流を深めることができた。

【クリスマス会】

日時	12月21日
場所	イマージュセンター
内容	・クリスマス工作コーナー ・自由遊びコーナー ・お楽しみゲームコーナー ・子ども用品フリーマーケット ・スマイルキッズさんによるクリスマス劇
参加者数	大人69名、子ども84名

●その他、2月にお片付け教室を行い、幼児の親子向けと小学生向けの2講座を実施し、子育て支援の行事を実施。また小豆島町の2か月児相談にも5回参加し、あいいく会の活動紹介や母への声掛けをした。

区分	子育ての環境づくり	
分類	② 若い世代の負担軽減	第3子以降の子どもの幼稚園・保育所保育料の無料化

事業名	第3子以降保育料無料化事業	
目標数等	多子世帯の保育料を免除することで、子育てにかかる経済的負担を軽減し、子育て世帯を応援する。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>○幼稚園・保育所・認定こども園を利用する、第3子以降の子どもの保育料を免除し、若い世代へ負担軽減に寄与した。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="background-color: #fce4ec; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>【保育所】138人(うち、第3子26人)                  【幼稚園】80人(うち、第3子7人)                  【認定こども園(2・3号)】140人(うち、第3子13人)                  【認定こども園(1号)】16人(うち、第3子1人)</p> <p>※令和2年3月31日現在(広域入所児を除く)</p> </div>  </div> <p>○島内では、小豆島中央病院内に病児・病後児保育室『オリーブキッズ』がある。普段は保育施設利用していても、子どもが病気で休めないという場合に利用できる。町では、第2子3歳未満の子どもと第3子就学前までの子どもの病児・病後児利用保育料を無償化している。                  &lt;参考&gt;オリーブ・キッズを半日利用した場合の利用料1,100円/1日利用した場合の利用料2,200円</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>利用者数 : 1日利用174人、半日利用62人  <b>うち、無償化対象 1日利用106人、半日利用31人</b></p> <p>令和元年度登録者数 : 第2子20人、第3子以降25人</p> </div>  </div>	<p>今後も継続して取組む。</p> <div style="text-align: right;">  </div>

区分	子育ての環境づくり	
分類	② 若い世代の負担軽減	中学生までの入院・外来医療費の無料化

事業名	子ども医療費助成制度																																												
目標数等	医療費助成による負担軽減を図るとともに医療費の適正化を目指す。																																												
	令和元年度 事業実績 【 評価 B 】	今後の取組み																																											
	<p>0歳から中学生までの入院・外来医療費の自己負担額の助成を実施。</p> <p>県内の医療機関などで受診した場合は、受給者証を提示することで窓口無料化となり、保護者の医療費の負担軽減を図っている。</p> <p>○令和元年度実績</p> <p>・対象児童数 1,275人 ※令和2年3月末時点</p> <p>内訳 0～6歳(就学前まで):560人 小学生～中学卒業まで:715人</p> <p>・支給額実績 31,048,592円(入院:174件 6,446,071円 外来:13,891件 24,602,521円)</p> <p style="text-align: right;">(円、件、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">0～就学前</td> <td>医療費</td> <td>13,280,706</td> <td>12,900,529</td> <td>14,805,588</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>7,160</td> <td>7,047</td> <td>7,245</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就学後～中学校卒業まで</td> <td>医療費</td> <td>15,535,262</td> <td>17,387,402</td> <td>16,241,246</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>7,069</td> <td>7,132</td> <td>6,820</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>医療費</td> <td>28,815,968</td> <td>30,287,931</td> <td>31,046,834</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>14,229</td> <td>14,179</td> <td>14,065</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一件あたりの医療費</td> <td>2,025</td> <td>2,136</td> <td>2,207</td> </tr> <tr> <td colspan="2">児童数(3月末)</td> <td>1,382</td> <td>1,295</td> <td>1,275</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	0～就学前	医療費	13,280,706	12,900,529	14,805,588	件数	7,160	7,047	7,245	就学後～中学校卒業まで	医療費	15,535,262	17,387,402	16,241,246	件数	7,069	7,132	6,820	合計	医療費	28,815,968	30,287,931	31,046,834	件数	14,229	14,179	14,065	一件あたりの医療費		2,025	2,136	2,207	児童数(3月末)		1,382	1,295	1,275	<p>継続実施。</p> <p>≪問題点≫</p> <p>・児童数は減少しているが、医療費は増加傾向にある。</p> <p>保護者に対し、病気の予防や適切な受診への協力を求めていく。</p>	
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																																									
0～就学前	医療費	13,280,706	12,900,529	14,805,588																																									
	件数	7,160	7,047	7,245																																									
就学後～中学校卒業まで	医療費	15,535,262	17,387,402	16,241,246																																									
	件数	7,069	7,132	6,820																																									
合計	医療費	28,815,968	30,287,931	31,046,834																																									
	件数	14,229	14,179	14,065																																									
一件あたりの医療費		2,025	2,136	2,207																																									
児童数(3月末)		1,382	1,295	1,275																																									

区分	子育ての環境づくり	
分類	② 若い世代の負担軽減	修学金制度の充実

事業名	保健医療福祉関係職修学資金貸付業務	
目標数等	新規貸付申請者数及び町内施設での業務従事者数の増加を目指す。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>・ 保健医療福祉関係職を目指す方に修学資金を貸し付けることにより、町立施設や町内の民間施設等における保健医療福祉関係職員の確保を図ります。</p> <p>○令和元年度貸付決定者 ※【 】は特別修学資金貸付対象人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸付対象人数 10名(新規:2名、継続:8名)【うち、特別修学資金貸付3名】</li> <li>・ 貸付決定額 7,080千円(うち、特別修学資金貸付決定額 2,880千円)</li> <li>・ 職種内訳 看護師 4名【1名】、保健師1名、作業療法士 1名、精神保健福祉士 1名、社会福祉士1名【1名】、介護福祉士1名、保育士1名【1名】</li> </ul> <p>○令和元年度返還猶予</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象人数 16人</li> <li>・ 職種内訳 看護師 10名、助産師 1名、保健師 1名、保育士 1名、臨床検査技師1名、管理栄養士 1名、医師1名</li> </ul>	<p>継続実施。</p> <p>申請窓口は学校教育課へ一本化</p> <p>4月 修学資金貸付者の受付</p> <p>5月 修学生選考委員会の開催</p> <p>新規貸付者、返還猶予者、返還免除者の決定。</p> <p>新規貸付者へ貸付決定通知書等送付。</p> <p>6月、10月、2月 修学資金貸付者へ振込。</p>



区分	子育ての環境づくり	
分類	② 若い世代の負担軽減	奨学金制度の充実(保健医療福祉・一般) 月額5万円、返還免除あり

事業名	奨学資金貸付事業																																						
目標数等	奨学資金の継続的な貸付を行う。																																						
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】				今後の取組み																																			
<p>修学を望む者のうち、経済的な理由により修学が困難なものに対し奨学資金を貸し付けることにより、修学の機会を確保するとともに、大学卒業後のUターンを促し、本町の振興と発展に必要な人材育成を図った。</p> <p>貸付額(月額) 大学等 50千円、高校 10千円</p> <p>H31.2~3 町広報等で奨学資金貸付者の募集 H31.4.1~4.30 奨学資金貸付者の受付 R1.5.21 奨学生選考委員会の開催 ※新規貸付者、返還猶予者、返還免除者等の決定 R1.5.21 新規貸付者へ貸付決定通知書等送付 返還猶予者、返還免除者へ決定通知書送付 R1.6.21 奨学資金貸付者へ第1期分振込 R1.10.9 奨学資金貸付者へ第2期分振込 R2.2.12 奨学資金貸付者へ第3期分振込 R2.2~3 町広報等で2年度奨学資金貸付者の募集</p> <p>【貸付者】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規</td> <td>65</td> <td>62</td> <td>53</td> <td>62</td> <td>59</td> <td>41</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>93</td> <td>120</td> <td>133</td> <td>137</td> <td>139</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>117</td> <td>155</td> <td>173</td> <td>195</td> <td>196</td> <td>180</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table>				年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	新規	65	62	53	62	59	41	49	継続	52	93	120	133	137	139	113	合計	117	155	173	195	196	180	162	<p>奨学資金及び保健医療福祉関係職修学資金の貸付制度について、両制度を合わせて検討を行い、返還免除に伴う猶予要件を5年間に改正するなど、見直しを行った。</p> <p>今後も、経済的な理由により修学が困難なものに対し奨学資金を貸し付けることにより、修学の機会を確保するとともに、大学卒業後のUターンを促し、本町の振興と発展に必要な人材育成を図る。</p> <p>貸付額(月額) 大学等 50千円、高校 10千円</p> <p>R2.2~3 町広報等で奨学資金貸付者の募集 R2.4.1~4.30 奨学資金貸付者の受付 R2.5.26 奨学生選考委員会の開催 ※新規貸付者、返還猶予者、返還免除者等の決定 R2.5.26 新規貸付者へ貸付決定通知書等送付 返還猶予者、返還免除者へ決定通知書送付 R2.6 奨学資金貸付者へ第1期分振込 R2.10 奨学資金貸付者へ第2期分振込 R3.2 奨学資金貸付者へ第3期分振込 R3.2~3 町広報等で令和3年度奨学資金貸付者の募集</p>			
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1																																
新規	65	62	53	62	59	41	49																																
継続	52	93	120	133	137	139	113																																
合計	117	155	173	195	196	180	162																																







区分	子育ての環境づくり	
分類	③ 小豆島こどもセンターの充実	小豆島こどもセンターを充実させることにより、通園中の児童の健全な成長を応援するとともに、在宅保育する家庭への相談業務を強化し、保護者の孤立化・孤独感を解消する。

事業名	地域子育て支援拠点事業、延長保育事業、一時預かり事業	
目標数等	地域子育て支援拠点事業の開所日数を週3日から週5日に増やすことにより、家庭保育の親子を支援。延長保育の実施。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p><b>○地域子育て支援拠点事業(すくすくひろば)</b> 月～金 9:00～14:00(5時間開設)</p> <p><b>【年間利用者】</b> 大人1,125人、子ども1,335人 1日あたりの平均利用親子5.0組</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、3月は感染拡大防止のためすべての行事を自粛した。</p> <p>保育士2名を専任職員として配置し、製作あそびや誕生日会、入所児との交流、保健師・栄養士による相談日などの他に講師などを招き、毎月楽しいプログラムを考え、家庭で保育している保護者とお子さんが気軽に訪れることのできる場所となるよう図っている。利用者数は毎年微増を続けている。</p> <p>「講師やボランティアを招いてのイベント実施数」 ベビーマッサージ(5回)、リトミック(5回)、読み聞かせ(9回)、スマイルキッズによる英語遊び(10回)、言語聴覚士によるお話会(1回)、歯の相談日(1回)</p> <p><b>○延長保育事業</b> ・短時間保育(基本8:30～16:30まで)の保育時間を超えての【<b>月平均利用者</b>】4名 ・標準時間保育の18:30以降の延長保育 【<b>年間利用者</b>】6名(実人数5名)</p> <p><b>○一時預かり事業</b> 普段はこどもセンターを利用していない家庭においても、保護者の傷病等により一時的に家庭での保育が困難となる場合がある。このような需要に対応するために、満1歳以上のお子さんの一時預かり事業を行っている。 <b>【年間利用者】33名(実人数5人)</b></p>	<p>今後も継続して、保護者の要望に応え、ベビーマッサージ、歯科衛生士による歯みがき指導、臨床心理士・保健師等への相談日を設け、親子のふれあいの場づくりや、保護者が普段悩んでいることを気軽に専門家に相談できる場を作っていく。今年度は、特に利用する親子に保育士が寄り添い、アットホームなひろばになるよう取り組んでいる。</p> <p>／ 季節に合わせた活動 ／</p>  <p>／ 子どもの成長にあわせた遊びを提供 ／</p>  <p>／ 親子でできる クッキング ／</p>  <p>／ ボランティアや講師によるイベント ／</p> 



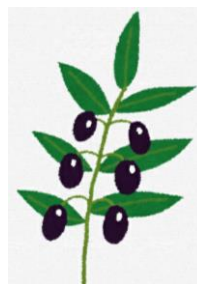
区 分	子育ての環境づくり																						
分 類	④ ICTの活用		小・中学校にタブレットPCを導入し、学習意欲の向上、情報活用能力を育成する																				
事業名	ICT環境整備事業																						
目標数等	タブレットPCを活用するとともに、校務PC整備(総計110台)の整備を図る。																						
令和元度 事業実績 【 評価 A 】			今後の取り組み																				
<p>○校務用PC導入(3~5年次計画 総計110台導入予定) 各学校ICT担当を中心にタブレットPCを活用した授業研究を行うとともに、教員の業務改善を図るために、町内小・中学校において校務用PCの整備を行った。</p> <p style="margin-left: 40px;">小学校 21台(1,978,560円) 中学校 11台(1,055,160円)</p> <p>○タブレットを活用した授業を行い、校内での授業研究を通して、教員一人一人が情報教育に対する理解と資質の向上に努め、情報活用能力の育成をはかった。</p>			<p>○小・中学校において1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、ICT機器の活用することにより、子どもたちの学習への興味・関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した分かりやすい授業、個に応じた指導の充実に役立てる。</p> <p>○学習用端末の導入(令和2年度、総計813台導入予定)</p> <p>○校内通信ネットワーク整備事業 (令和2年度、全学校の校内LANの再整備)</p> <p>○ICT環境の整備(プログラミング教材の導入) 小学校:プログラミング教育の開始に伴い、ハードウェアの整備を行う。「プログラミング的思考」を育み、情報技術の役割に対する「気付き」を促し、コンピュータを上手に役立てる「態度」を育むとともに各教科等の学びをより深める。 (令和2年度、プログラミング教材・教材用図書の購入)</p> <p>○香川県教育センターと連携し、タブレットを活用した授業の検証を行い、校内での研修や授業研究を通して、教員1人1人が情報教育に対する理解と資質の向上に努め、情報活用能力の育成をはかる。</p> <p>○地域おこし協力隊(ICT支援員)を採用</p>																				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">校務用PC導入実績</th> <th style="width: 10%;">H28</th> <th style="width: 10%;">H29</th> <th style="width: 10%;">H30</th> <th style="width: 10%;">R1</th> <th style="width: 10%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>12台</td> <td>19台</td> <td>25台</td> <td>21台</td> <td>77台</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5台</td> <td>9台</td> <td>11台</td> <td>11台</td> <td>36台</td> </tr> </tbody> </table>						校務用PC導入実績	H28	H29	H30	R1	合計	小学校	12台	19台	25台	21台	77台	中学校	5台	9台	11台	11台	36台
校務用PC導入実績	H28	H29	H30	R1	合計																		
小学校	12台	19台	25台	21台	77台																		
中学校	5台	9台	11台	11台	36台																		
																							

区 分	子育ての環境づくり	
分 類	④ ICTの活用	学力向上のため、学習用タブレットの購入費の一部を助成する


事業名	ICT教育推進事業	
目標数等	ICT関係のPC等を活用し、ICT能力と学力の向上を図る。	
	令和元年度 事業実績 【 評価 A 】	今後の取組み
	<p>小豆島中央高校において、タブレット端末を用いた学習の実現にあたり学習用タブレットの購入費の一部を助成する。</p> <p><b>【目 的】</b> 2020年の高大接続改革(大学入試改革)において英語のCBT(コンピュータによる試験)導入や、高校教育改革において、これまでの基礎学力にプラスして、「課題発見能力」「問題解決能力」や「協働的な学びの推進」が必要になる。授業における主体的で双方向的な深い学び、家庭学習における主体的で継続的な学びを進めるために、学校内外での活用を想定し、タブレットを個人所有することから、経済的な負担軽減のため助成する。</p> <p><b>【補助内容・実績】</b> 小豆島中央高校 特進クラス1年生 30人×7,500円×1/2(土庄町と按分) 小豆島中央高校 特進クラス2年生 33人×7,500円×1/2(土庄町と按分)</p> <p><b>【用 途】</b> (授業内)生徒の意見集約・共有、教材提示(動画・静止画)、情報検索、英語でのspeaking/writing指導、理科の実験記録、学習活動の蓄積、課題提出 (授業・課外活動)添削指導、外部英語検定対策 (辞書機能)三省堂6辞書セット(新明解国語辞典、全訳読解古語辞典、全訳漢辞海、スーパー大辞林、ウィズダム英和辞典、ウィズダム和英辞典) * 私的目的で利用が出来ないよう設定済</p>	<p>○ひきつづき、タブレット端末を用いた学習の実現にあたり学習用タブレットの購入費の一部を助成する。初年度のため、数年は事業を継続し、タブレット端末を用いた授業の効果や状況を見て、小豆島中央高校、土庄町と協議のうえ、判断する。</p> 

区 分	子育ての環境づくり	
分 類	⑤ ふるさと教育の推進	学校支援ボランティアによる地域学・交流により、ふるさとを愛する心を育む




事業名	学校支援ボランティア等との交流によるふるさと教育事業	
目標数等	学校支援ボランティア等を活用し、継続して事業を行う。	
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】		今後の取組み
<p>総合的な学習の時間を活用し、学校支援ボランティア等の地域の人々との交流を行い、ふるさと小豆島に対する理解を深めるとともに愛着がもてるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○池田小学校 3年：障がい者との交流 4年：各職種の方と交流 5年：高齢者との交流</li> <li>○星城小学校 3年：醤油工場を見学(6月) 4年：オリーブ園を見学(6月)</li> <li>○安田小学校 3年：オリーブ栽培関係者に取材 5年：農業関係者と田植え、生物調査(6月)・案山子作り(7月)、農業関係者と稲刈り(10月)、おはぎ作りを実施(11月)</li> <li>○苗羽小学校 3年：醤油作りに関わる人に取材 4年：オリーブ栽培関係者に取材</li> <li>○小豆島中学校 1年：小豆島の自然・歴史・文化・産業等についてのふるさと学習を実施。(5～6月) 1年：教科「技術」の時間に専門家の方から剪定の方法を学び実体験(3月)</li> </ul>		<p>各小中学校において、計画に沿って事業を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○池田小学校 3年：障がい者との交流 4年：各職種の方と交流 5年：高齢者との交流</li> <li>○星城小学校 3年：醤油工場を見学 4年：オリーブ園を見学</li> <li>○安田小学校 3年：オリーブ栽培関係者等に取材</li> <li>○苗羽小学校 3年：醤油作りに関わる人に取材 4年：オリーブ栽培関係者に取材</li> <li>○小豆島中学校 1年：小豆島の自然・歴史・文化・産業等についてのふるさと学習を実施 1年：教科「技術」の時間に専門家の方からオリーブの剪定の方法を学び実体験</li> </ul>



区 分	子育ての環境づくり	
分 類	⑤ ふるさと教育の推進	大学卒業後、一定期間、小豆郡内に就職した場合、奨学金返還を免除

事業名	奨学資金貸付金返還猶予・返還免除事業																						
目標数等	返還猶予事業を継続して実施し、返還猶予者の増加を図る。																						
令和元年度 事業実績 【 評価 A 】				今後の取組み																			
<p>平成24年度以降に奨学資金の貸付を受けた者で、大学等を卒業後、町内に住所を有し、郡内の事業所に就業するときは返還の猶予ができる。 また、平成29年度からは、返還の猶予が5年間を経過すれば、返還が免除される。 なお、高校での貸付者は対象外である。</p> <p>H31.4.1 納入通知・返還猶予周知文を貸付返還者へ送付 R1.5.21 奨学生選考委員会の開催(返還猶予者の決定) R1.5.21 返還猶予者へ決定通知書送付 R2.4 納入通知・返還猶予周知文を貸付返還者へ送付</p> <p>【返還猶予者】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>年度</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> </tr> <tr> <td>猶予者数</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>25</td> <td>40</td> <td>53</td> <td>68</td> </tr> </table>				年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	猶予者数	8	13	15	25	40	53	68	<p>平成24年度以降に奨学資金の貸付を受けた者で、大学等を卒業後、町内に住所を有し、郡内の事業所に就業するときは返還の猶予ができる。 また、平成29年度からは、返還の猶予が5年間を経過すれば、返還が免除される。 なお、高校での貸付者は対象外である。</p> <p>R2.4.1 納入通知・返還猶予周知文を貸付返還者へ送付 R2.5.26 奨学生選考委員会の開催(返還猶予者の決定) R2.5.26 返還猶予者へ決定通知書送付 R3.4 納入通知・返還猶予周知文を貸付返還者へ送付</p>			
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1																
猶予者数	8	13	15	25	40	53	68																
																							

区分	子育ての環境づくり	
分類	⑤ふるさと教育の推進	オリーブトッパワンプロジェクトによるオリーブに親しむ機会の創出

事業名	オリーブに親しむ機会の創出																																																	
目標数等	小・中学校の出前授業: 1回(年間)																																																	
令和元年度 事業実績 【評価 A】		今後の取組み																																																
<p><b>1.オリーブ10万本植栽計画</b></p> <p>(1)小学校入学記念にオリーブ苗木を配布。(88名)</p> <p>(2)結婚・出産・移住の人生の節目としての記念に苗木を配布。(結婚20組・出産40組・移住85組)</p>  <p style="text-align: center;">小学校入学記念</p> <p><b>2. オリーブ出前授業の実施</b></p> <p>(1)町内4小学校4年生を対象に、オリーブの歴史や栽培等に関する講義及び、オリーブの枝等を使ったクラフト体験を実施。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>実施日</th> <th>人数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安田小学校</td> <td>11月25日</td> <td>18</td> <td rowspan="4">座学 クラフト体験</td> </tr> <tr> <td>星城小学校</td> <td>12月6日</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>苗羽小学校</td> <td>12月13日</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>池田小学校</td> <td>12月18日</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※安田小は3年生対象</p> <p><b>3. 学校給食導入にかかる果実収穫体験</b></p> <p>町内4小学校4年生及び小豆島中学校において、地産地消の観点から学校園で栽培されているオリーブの果実の収穫体験を実施。収穫された果実は、後日給食のメニューとして提供。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>区分</th> <th>実施日</th> <th>学年</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>池田小学校</td> <td>新漬用</td> <td>10/1</td> <td>4</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>苗羽小学校</td> <td>新漬用</td> <td>10/18</td> <td>4</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>星城小学校</td> <td>新漬用</td> <td>10/25</td> <td>4</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>安田小学校</td> <td>新漬用</td> <td>10/21</td> <td>3</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>小豆島中学校</td> <td>オイル用</td> <td>11/20</td> <td>1・2</td> <td>182</td> </tr> </tbody> </table> 		学校名	実施日	人数	内容	安田小学校	11月25日	18	座学 クラフト体験	星城小学校	12月6日	19	苗羽小学校	12月13日	25	池田小学校	12月18日	31	学校名	区分	実施日	学年	人数	池田小学校	新漬用	10/1	4	31	苗羽小学校	新漬用	10/18	4	25	星城小学校	新漬用	10/25	4	19	安田小学校	新漬用	10/21	3	18	小豆島中学校	オイル用	11/20	1・2	182	<p><b>1. オリーブ10万本植栽計画</b></p> <p>(1)小学校入学記念にオリーブ苗木を配布。(91名)</p> <p>(2)結婚・出産・移住の人生の節目としての記念に苗木を配布。</p> <p>※(1)(2)により配布したオリーブの活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆収穫した少量果実の採油事業</li> <li>◆マイオイルづくりのワークショップ</li> </ul> <p><b>2. オリーブ出前授業の実施</b></p> <p>(1)町内4小学校を対象に、オリーブの歴史や栽培に関する講義及びオリーブの枝を使ったクラフト体験の実施。</p> <p>(2)中学生を対象としたオリーブの剪定方法について実技実習を実施。</p>  <p><b>3. 学校給食導入にかかる果実収穫体験</b></p> <p>町内4小学校及び小豆島中学校において、地産地消の観点から学校園で栽培されているオリーブの果実の収穫体験を実施。収穫された果実は、後日給食のメニューとして提供。</p>	
学校名	実施日	人数	内容																																															
安田小学校	11月25日	18	座学 クラフト体験																																															
星城小学校	12月6日	19																																																
苗羽小学校	12月13日	25																																																
池田小学校	12月18日	31																																																
学校名	区分	実施日	学年	人数																																														
池田小学校	新漬用	10/1	4	31																																														
苗羽小学校	新漬用	10/18	4	25																																														
星城小学校	新漬用	10/25	4	19																																														
安田小学校	新漬用	10/21	3	18																																														
小豆島中学校	オイル用	11/20	1・2	182																																														



区分	地域による応援	
分類	① 出会いの輪創出	小豆島の自然や文化などを活用したイベントの実施

事業名	出会いの輪創出	
目標数等	イベント内容を充実させていく。婚姻数を1組/年	
令和元年度 事業実績 【 評価 C 】		今後の取組み
<p>平成20年度から実施したイベント形式による婚活事業は成果が小さいため、事業を停止し、香川県が委託しているかがわ縁結び支援センターの「マッチング会員登録説明会」に参加するとともに、令和2年度以降に向けた取組を検討した。</p> <p>また、当課に出会いの場を提供してほしいと直接連絡を取ってきた県外者(女性)に対し、地域の方に手伝い・協力をお願いし、男性と引き合わせを行うことができた。残念ながらカップル成立には至らなかった。</p> <p>《これまでの取組》</p> <p>平成20年～平成30年度イベント形式で事業を実施(総参加人数:530名/婚姻数:5組)</p> <p>平成20年度～ 小豆島町単独で事業を実施 (参加人数:273名/婚姻数:2組)</p> <p>平成26年度～ 小豆島町、土庄町、両町商工会青年部合同で立ち上げた「小豆島えんむすび実行委員会」で事業を実施 (参加人数:257名/婚姻数:3組)</p> <p>令和元年5月 費用対効果を鑑み、小豆島えんむすび実行委員会を脱会 小豆島町議会決算特別委員会では「成果がない」と指摘されていた</p>		<p>○令和2年度以降は地域のおせっかいさんをアドバイザーとして協力を依頼して、令和元年度に検討した内容をもとに「縁結びマッチング」を実行に移し、結婚を希望する男女の出会いを応援することで、小豆島における婚姻数の増加を目指す。まずは、出会いを求める方の登録から事業を進める。</p> <p>○包括連携協定を結んでいる百十四銀行と連携し、百十四銀行婚活デスクの職員に講師を依頼してライフプランニングについての講座を開催予定。</p> <div data-bbox="1724 1005 2016 1244" data-label="Image"> </div> <p>《課題》</p> <p>個人と個人の問題であり、婚姻に結びつくことは容易なことではなく、地道に活動していく必要がある。</p>



〈 確保方策 〉		27年度				28年度			
区 分	1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み ①		150人	138人	34人	97人	149人	136人	35人	97人
確保方策 ②	特定教育・保育施設	540人	126人	29人	95人	540人	128人	35人	107人
	特定地域型保育								
差 ② — ①		390人	△12人	△5人	△2人	391人	△8人	0人	10人
〈 実 績 〉									
受入数	年度当初4月1日	127人	144人	7人	97人	104人	139人	9人	103人
	年度末3月31日 ③	128人	143人	36人	105人	100人	143人	37人	114人
差 ② — ③		412人	△17人	△6人	△10人	440人	△15人	△2人	△7人

※ 平成28年度、1私立保育所が定員を20名増やした。

〈 確保方策 〉		29年度				30年度			
区 分	1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み ①		148人	135人	37人	101人	147人	135人	37人	101人
確保方策 ②	特定教育・保育施設	555人	154人	38人	113人	555人	154人	38人	113人
	特定地域型保育								
差 ② — ①		407人	19人	1人	12人	408人	19人	1人	12人
〈 実 績 〉									
受 入 数	年度当初4月1日	123人	144人	11人	90人	110人	155人	6人	109人
	年度末3月31日 ③	131人	145人	42人	101人	112人	172人	25人	113人
差 ② — ③		424人	9人	△4人	12人	333人	△18人	13人	0人

※ 平成29年4月、1私立保育所が幼保連携型認定こども園になり、1号定員を15名、2・3号定員を20名増の定員155名とした。

〈 確保方策 〉		31年度(令和元年度)			
区 分		1号	2号	3号	
量の見込み ①		146人	135人	37人	101人
確保方策 ②	特定教育・保育施設	555人	154人	38人	113人
	特定地域型保育				
差 ② - ①		409人	19人	1人	12人
〈 実 績 〉					
受入数	年度当初4月1日	101人	159人	10人	91人
	年度末3月31日 ③	87人	171人	33人	94人
差 ② - ③		468人	△ 17人	5人	19人

※ いずれの年度においても“差②-③”は、マイナス表示(定員不足)だが、「保育所への入所の円滑化について」(平成10年2月13日児発第73号)に基づいた受入れを行っており、待機児童は発生していない。

## 地域子ども・子育て支援事業 量の見込みと確保方策

### 《ファミリー・サポート・センター事業》

乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業

#### 〈量の見込み〉

※数値は実人数

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	90人	90人	90人	90人	90人

#### 〈確保方策〉

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	90人	90人	90人	90人	90人

#### 〈実績〉

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	0人	0人	0人	0人	0人

○平成27年度から、保護者に代わり病児を小豆島中央病院病児・病後室へ搬送するサポート事業(本町独自事業)を開始した。これまでのところ利用実績はない。

## 《延長保育事業》

保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、認定こども園、保育所等において保育を実施する事業

### 〈量の見込み〉

※数値は月平均実人数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	14人	50人	50人	50人	50人

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	14人	50人	50人	50人	50人

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	50人	28人	16人	12人	10人

○19時までの延長保育を実施している。今後も職員の配置基準に則り適正に対応する。

## 《利用者支援事業》

子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業

### 〈量の見込み〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1

○引き続き子育て支援の情報提供や相談・助言に努める。



家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点、その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業

〈 量の見込み 〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	7,825人	7,825人	7,825人	7,825人	7,825人
その他施設	1,251人	1,376人	1,494人	1,494人	1,494人

〈 確保方策 〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	7,825人	7,825人	7,825人	7,825人	7,825人
その他施設	1,251人	1,376人	1,494人	1,494人	1,494人

〈 実 績 〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	7,825人	6,283人	6,021人	5,168人	5,168人
その他施設	1,376人	1,494人	1,669人	1,749人	770人

○認定こども園が、31年度から併設する企業主導型施設で一時預かり事業を始めたため利用者が大幅に減少した。  
○幼稚園、保育所、認定こども園やNPO法人で適正に受入している。

## 《地域子育て支援拠点事業》

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業

### 〈量の見込み〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	5,416人	7,715人	7,715人	7,715人	7,715人

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	5,416人	7,715人	7,715人	7,715人	7,715人

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	7,715人	7,147人	7,212人	7,377人	7,450人

○2か所で実施している。引き続き、事業の充実を図る。

## 《放課後児童クラブ事業》

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室、児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業

### 〈量の見込み〉

※数値は年間平均人数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	125人	125人	136人	136人	136人

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	125人	125人	136人	136人	136人

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	103人	136人	143人	126人	147人

○3施設で適正に受入している。

## 《病児保育事業》

病児について、病院・保育所等に敷設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等する事業

### 〈量の見込み〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	570人	599人	628人	660人	693人

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	570人	599人	628人	660人	693人

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	468人	403人	427人	401人	388人

○平成28年度に開院した小豆島中央病院で病児・病後児保育事業を実施している。

## 《子育て短期支援事業》

保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業（短期入所生活援助事業及び夜間養護等事業）

### 〈量の見込み〉

※数値は実数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	16人	16人	16人	16人	16人

### 〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	0	0	0	0	0

### 〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	0	0	0	0	0

○ニーズ調査の結果、ニーズ量が少ないことから、今回の計画期間内での設置は行わないこととする。



### 《妊婦健康診査》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
受診数見込み	1,032人	1,032人	1,032人	1,032人	1,032人
実績	965人	1,035人	911人	806人	872人
妊娠届出数見込み	86人	86人	85人	80人	80人
実績	83人	65人	72人	80人	71人

### 《養育支援訪問事業》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象者数見込み	9人	9人	4人	4人	4人
実績 (訪問回数)	2人 (24回)	2人 (33回)	4人 (18回)	15人 (33回)	11人 (18回)

### 《乳児家庭全戸訪問事業》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
乳児数見込み	86人	86人	85人	80人	80人
実績	61人	70人	70人	68人	67人